

序

大江町左沢は、水路と陸路の集中する地理的な好条件に支えられ、近世に著しい発展をとげた最上川舟運とともに栄えてきました。舟運から陸運への転換を余儀なくされた近代に入っても、鉄道の敷設や最上川への架橋などにより、町場の賑わいをつくり活況をもたらすための努力が営々と続けられてきました。

しかしながら、近年の高齢化社会の到来に加えて過疎化が拍車をかけ、地域産業の低迷や若い世代の都市への流出、地域コミュニティの衰退という深刻な課題が生じ、わたしたちは自然と隣り合わせに営んできたくらしの記憶やふるさとの原風景を、ともすれば喪失してしまいかねない時代を迎えています。

そのため、大江町では平成 19 年に景観条例を制定して景観行政団体となり、良好な景観の形成に向けて新たな一步を踏み出しました。それを契機に大江町教育委員会は、大江町の風土とくらしの営みがしのばれる文化的景観の保護をめざし、平成 20 年に大江町文化的景観調査委員会を設置して取組みを進めて参りました。その間、平成 21 年 2 月には、15 年間にわたって調査を続けてきた左沢楯山城跡が国史跡の指定を受けるといふ喜ばしい出来事にも後押しされ、このほど「大江町と最上川の流通・往来の景観保存調査報告書」をまとめることができました。

この調査の成果をもとに、大江町で営まれてきた人々のくらしと生業が織り成す景観の認識がよりいっそう深まり、解明された価値の理解がさらに広がることを期待しながら、次代につなぐまちづくりを推進していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査のためにご尽力いただきました大江町文化的景観調査委員会の委員の皆さま、ご指導とご協力をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

大江町教育委員会

教育長 富樫 是行

例 言

- 1 本書は、山形県西村山郡大江町に所在する文化的景観（「大江町と最上川の流通・往來の景観」）の保存調査報告書である。
- 2 本書は、本文、挿図、写真、表からなる。
- 3 調査は大江町教育委員会が大江町文化的景観調査委員会を設置し実施した。調査組織は以下のとおりである。

調査主体 大江町教育委員会 教育長 富樫 是行

調査指導 文化庁 文化財部 記念物課 鈴木 地平

山形県 教育庁 文化財保護推進課

大江町文化的景観調査委員会

委員長 入間田 宣夫

委員 伊藤 宗三（平成 21 年度～ 23 年度）

委員 岩鼻 通明

委員 金山 耕三

委員 菊地 和博

委員 志村 直愛

委員 中村 裕美子

委員 若月 孝（平成 20 年度）

委員 渋谷 孝雄（平成 20 年度）

事務局

大江町教育委員会、大江町総務企画課

平成 20 年度 教育文化課 社会教育係

教育文化課長 毛利 登志浩

教育文化課 社会教育主幹 佐藤 准一

教育文化課 社会教育係長 西田 正広

教育文化課 主任 上田 美紀

教育文化課 主事 庄司 光幸

教育文化課 主事 菊地 泰子

平成 21 年度 教育文化課 社会教育係

教育文化課長 松田 清隆

教育文化課 社会教育主幹 佐藤 准一

教育文化課 社会教育主査 佐竹 宗広

教育文化課 社会教育係長 西田 正広

教育文化課 主任 庄司 光幸

教育文化課 主事 菊地 泰子

平成 22・23 年度 教育文化課 歴史文化係

教育文化課長 松田 健一

教育文化課 社会教育・歴史文化・体育振興主幹 結城 順二

教育文化課 歴史文化主査 櫻井 洋志

教育文化課 歴史文化係長 京谷 潤

教育文化課 主事 菊地 泰子

平成 20 年度 総務企画課 政策推進係

総務企画課 政策推進主査 櫻井 洋志

総務企画課 政策推進係長 伊藤 和幸

平成 21 年度 総務企画課 政策推進係

総務企画課 政策推進主査 櫻井 洋志

総務企画課 政策推進係長 伊藤 和幸

総務企画課 主任 清野 能史

平成 22・23 年度 総務企画課 政策推進係

総務企画課 政策推進主査 西田 正広

総務企画課 政策推進係長 伊藤 和幸

総務企画課 主任 清野 能史

- 4 調査及び本報告書の刊行は、平成 20 年度～ 23 年度に国宝重要文化財等保存整備事業（文化的景観保護推進事業）、平成 20 年度に山形県世界遺産構成資産文化財調査事業費補助金、平成 21 年度に最上川の文化的景観文化財保護調査事業費補助金、平成 22～ 23 年度に文化財保存管理計画策定事業費補助金（「山形の宝」育成事業）の採択を受けて実施した。

- 5 掲載した図版のうち、既存の図を使用した場合にはそれぞれの出典などを各図に記した。特論並びに第6章第1節など、個別にその旨を記載した図版は執筆者等が作成、他は委員会の指導及び委員等の調査結果を受け、事務局が加工・作成した。
- 6 掲載した写真図版のうち、転載した写真図版や著作権が大江町に帰属しないものについては、それぞれの出典などを各写真図版に示した。記載がない写真図版は本調査において撮影した写真又は町に著作権が帰属する写真である。
- 7 引用・参考文献一覧は、巻末に掲載した。
- 8 本書の印刷製本は寒河江印刷株式会社が行った。
- 9 本書は大江町文化的景観調査検討委員会の指導のもと、執筆は以下のように分担して行い、編集は菊地が担当した。なお、執筆者の職位等は報告書刊行時点のものである。

第1章 第1・2節	櫻井 洋志	第5章 第3節	志村 直愛・菊地 泰子	
	第3節	菊地 泰子	第4節	菊地 和博
第2章	菊地 泰子		(東北文教大学短期大学部 教授)	
第3章	岩鼻 通明	第5節	志村 直愛・菊地 泰子	
	(山形大学農学部 教授)	第6・7節	志村 直愛	
第4章 第1節	渋谷 孝雄	第6章 第1節	岩鼻 通明	
	(山形県文化財保護推進課 課長補佐)	第2節	志村 直愛	
第2節	入間田 宣夫	第3節	菊地 和博	
	(東北芸術工科大学芸術学部 教授)	第7章 第1節	岩鼻 通明	
第3・4節	金山 耕三	第2節	菊地 和博	
	(大江町文化財保護委員会 委員)	第8章	菊地 泰子	
第5節	志村 直愛	特論1	藤井 尚夫	
	(東北芸術工科大学デザイン工学部 准教授)	特論2	加藤 和徳	
	菊地 泰子	特論3	市村 幸夫	
第5章 第1節	菊地 泰子	特論4	金山 耕三	
第2節	志村 直愛			

- 10 調査及び図版作成に関わる作業は、下記の方々にご協力いただいた。

山形大学農学部 准教授 渡辺 理絵

東北芸術工科大学 東北文化研究センター専任講師 岸本 誠司

及川 達也、関根 和貴、西山 孝、森永 未来、東北芸術工科大学志村研究室のみなさま

- 11 調査から本書の作成に至るまで下記の方々から多大なご教示とご協力を賜った。厚く感謝申し上げます。

阿部 明彦、阿部 信夫、医王寺、石川 由美、磯邊 義之、伊藤 正信、上田 裕行、遠藤 邦一郎、大泉 義矩、小國 利宏、奥平 昌弘、海野 米弘、柏倉 清助、兼子 聡、鴨田 繁、菊地 一郎、菊地 賢一、菊地 繁治、菊地 写真館、葉の高取 藻江堂、小林 正敏、巨海院、駒林 良仁、今野 まさよ (故)、斎藤 徳治、斎藤 半助、佐竹 一郎、佐竹 勝蔵、佐竹 弘一、佐竹 与惣治、佐藤 信利、佐竹 やす、渋谷 孝雄、庄司 幸一、庄司 孝、庄司 武、庄司 俊夫、鈴木 善太郎、鈴木 芳太郎、清野 清一郎、清野 太、高取 俊之、高橋 五郎、高橋 忠夫、戸田 庄一郎、戸田 盛栄、西村 昭信、林 重美、林 武一郎、商店、半田 晃章、松田 朗雄、松田 きみの、松田 庄太郎、松田 強三、松田 専一郎、山家 重之、山家 吉明、結城 かねよ、渡辺 清、渡辺 登美男

左沢高等学校及び同校 JRC のみなさま、株式会社きらやか銀行左沢支店、中央通り商店街、リ・ワークス

左沢1区、左沢2区、左沢3区、左沢4区、左沢5区、左沢6区、左沢7区、左沢8区、左沢9区、左沢10区、左沢11区、左沢12区、左沢13区、小漆川区、葛沢区、檜山区、材木区、小清区ほか、大江町内在住のみなさま文化庁、山形県文化財保護推進課、(財)山形県埋蔵文化財センター (順不同、敬称略)